

令和4年度

# ふくしの作品 入選作品集



## 最優秀賞

「障がい者・福祉に関するマークをいくつ知っていますか？」

大生院小学校 6年 松本 一花



佳作 「ふくしのポスター」  
神郷小学校 4年 二宮 紅愛



特別賞 「みんな幸せ」  
中萩中学校 2年 山田 陽南太



特別賞 「皆で同じ道を歩いていこう」  
西高等学校 1年 山内 伊織

# 発刊にあたり

社会福祉法人 新居浜市社会福祉協議会  
会長 小野 正師

令和4年度の「ふくしの作品集」に多くのご応募をいただき、誠にありがとうございました。

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、今年度も「ワークキャンプ」を中止せざるを得なくなったことは非常に残念でしたが、替わって「ふくしの作品集」の制作と「ふくしのお仕事講座」を実施することができました。参加者の皆さん、講師としてご協力いただいた施設や職員の皆さんに感謝申し上げます。

この作品募集において、小中高生の皆さんが自分なりの感じ方、考え方を十分に表現していて、それぞれに豊かな経験を積み、多様な視点を持っていることを非常に頼もしく感じました。

地域社会は、見ず知らずの多くの方々が支えあって成り立っています。誰かが常に見守って下さり、温かな手を差し伸べてくれています。そして、祖父母や家族との生活、高齢者や障がい者とのふれあい、友人や親・先生からのお話やアドバイス、ボランティアの体験やさまざまな経験が自らを育ててくれます。日々の学びの中から心豊かな優しさを育み、興味のある分野へのチャレンジが探求心や専門性を高め、自信となり、強くたくましい人間力を養っていきます。

人は、誰かの役に立ち、喜ばれるために生まれてきたのだと思います。どうか、若い時から社会のさまざまなことに目を向け、知恵を働かせ、汗を流し、実践を通しての気づきを深め、素晴らしい大人に成長してってください。

ありがとうございました。

## 令和4年度「ふくし」の作品 受賞者

### ■作文

#### 《小学生の部》

最優秀賞	神郷小学校	4年	二宮	紅愛
佳作	大生院小学校	6年	久枝	里穂

#### 《中学生の部》

最優秀賞	角野中学校	3年	佐藤	陽太
優秀賞	角野中学校	3年	篠崎	温菜
佳作	角野中学校	3年	植野	咲良

#### 《高校生の部》

最優秀賞	商業高等学校	3年	横井	有葵
優秀賞	東高等学校	2年	飯尾	天音
佳作	東高等学校	2年	合田	響美

### ■ポスター

#### 《小学生の部》

最優秀賞	大生院小学校	6年	松本	一花（表紙）
優秀賞	金子小学校	4年	丸野	正樹（裏表紙）
佳作	神郷小学校	4年	二宮	紅愛（表紙2）

#### 《中学生の部》

特別賞	中萩中学校	2年	山田	陽南太（表紙2）
-----	-------	----	----	----------

#### 《高校生の部》

特別賞	西高等学校	1年	山内	伊織（表紙2）
-----	-------	----	----	---------

～全ての応募作品はホームページに掲載しますので、ぜひご覧下さい～

ホームページアドレス <https://niihama-vc.com>

新居浜ボラセン

🔍 検索



## ● 令和4年度「ふくし」の作品 講評 ●

### 新居浜市民生児童委員協議会 会長 白石 敦之

本年度は、小学生の応募もあり、小中高生の皆さんの地域福祉に対する関心の高さに大変感動しました。

小中高生の皆さんが、身近な家庭や地域、職場体験やボランティア活動等で高齢者や障がい者と関わり、感じたり考えたりしたことや学んだりしたことなどから、自分にできることを真剣に考え、行動しようとしている姿勢に深い感銘を覚えました。

これからも、みんなが笑顔で暮らせる地域社会を目指し、地域のつながりを大切にして、皆さん一人ひとりができる福祉の役割を果たして欲しいと心より願っています。

### 新居浜市社会福祉協議会 支部連絡協議会 会長 神野 洋行

小学4年・二宮紅愛さんの「福祉の仕事から学んだこと」では、デイサービス事業所での認知症高齢者との交流を通じた「リセットされる毎日」を前向きにとらえるやさしさと強さを感じました。中学3年・佐藤陽太さんの「普段の暮らしを幸せに」は「バリアフリー」を活かすための考え方の重要性や日々の挨拶や心配りが幸せにつながっているということ、改めて感じさせられるメッセージでした。高校3年・横井有葵さんの「福祉について」では、老人ホームでの職場体験学習を通して「支える人と支えられる人」との関係は双方向であるという考えに至ったことがつづられており、深く感銘しました。

そのほか、高校2年・飯尾天音さんの「とても強い私の曾祖母」は、最優秀賞とそんな色のない内容・技術面ともに秀でた作品で、その物語に引き込まれました。

## 新居浜市福祉施設協議会 会長 伊藤 剛弘

作者一人ひとりから視る「ふくし」は、私たち福祉現場で働く者にとって、決して忘れてはいけない「当たり前」であると強く感じました。それは、自分が幸せになる、周囲の人が幸せになる、全ての人が幸せになるということが本当の意味での「ふくし」であり、作者のみなさんからの強い思いが伝わってきました。また「ふくし」は身近なものであり、気配りや心配りから始まることが大切であるとうかがえました。

今後、作者のみなさんが今の気持ちを忘れず、1人でも多くの人へこのことを伝えていただくことを願っています。素晴らしい作品に出会えたことに感謝いたします。



# 令和4年度「ふくし」の作品募集 実施要項

## 1. 目的

新居浜市内の小学・中学・高校生の皆さんから「ふくし」の作品を募集し「ともに生きる豊かな地域社会」についての関心を一層深めていただくことを目的としています。また、学ぶ中で気づいたこと、考えたことを振り返り、作品集として発行することで、多くの人とそれぞれが考える福祉への思いを共有する場とします。

**2. 主催** 社会福祉法人 新居浜市社会福祉協議会  
(新居浜市ボランティア・市民活動センター)

**3. 募集対象** 新居浜市内の学校に通う小学生(4～6年生)・中学生・高校生

## 4. 募集作品

- (1) テーマ ①福祉についての体験から得たこと・感じたこと  
②福祉についての自分の思い・考えていること  
③福祉についての本・映画などから感じた自分が考える福祉について
- (2) 募集部門および点数  
①小学生の部/作文・ポスターそれぞれ1人1点まで  
②中学生の部/作文・ポスターそれぞれ1人1点まで  
③高校生の部/作文・ポスターそれぞれ1人1点まで
- (3) 様式 ①作文 400字詰め原稿用紙に2枚以上4枚以内  
(800字以上1,600字以内、題名、学校、学年、氏名を記載)  
②ポスター 画用紙四つ切りサイズ  
(裏側に題名、学校、学年、氏名を記載)
- (4) 注意事項 ①応募作品はポスターのみ返却します。  
②作品は未発表のものに限ります。

## 5. 応募方法

作品に応募用紙を添付し、令和4年9月9日(金)までに下記までご応募ください。

## 6. 選考

選考委員会を設けて、各部・部門ごとに入選作品を各4編程度選考し、令和4年11月(予定)に学校を通じて発表します。

## 7. 表彰等

入選者には賞状と図書カード、参加者には記念品を贈呈します。  
また、新居浜市社会福祉大会(12月)において表彰します(最優秀賞)。

## 8. 作品集の作成等

入選作品を掲載した作品集を作成するとともに、応募作品は新居浜市ボランティア・市民活動センターのホームページに掲載します。入選者の氏名・学年・学校名は広報誌等で使用する場合があります。

## 9. 問合せ先・応募先

社会福祉法人 新居浜市社会福祉協議会 新居浜市ボランティア・市民活動センター  
新居浜市高木町2番60号 TEL・FAX 65-1009  
E-mail: v-center@n-syakyo.jp

応募総数

	作文	ポスター
小学生の部	2	3
中学生の部	19	1
高校生の部	105	1

## 「福祉の仕事から学んだこと」

神郷小学校 4年 二宮 紅愛

私はようちえんのころからお母さんの仕事場であるデイサービスにいっしょにつれていってもらっています。なので福祉については、小さいころからふれさせてもらっていて高れい者の方やしょうがい者の方とお話をさせてもらったり、いっしょにお昼ごはんを食べさせてもらったりしています。私は、今年の夏休みにもデイサービスに毎日通いました。みんなやさしくて、とても親切にしてくれています。

車いすでこられる方や、つえをついてこられる方、1人で歩けるけれど、ふらつきの強い方、しょく員さんがそばにいて、てんとうしないように毎回介助をしながらいっしょにご自分の席につくまで見守りをしているすがたを見て、当たり前歩ける事、当たり前1人で学校に行ける事、それは当たり前の事ではないんだなと思いました。

私は、ようちえんのころからデイサービスに行っているけれど私の事を覚えてくれている利用者さんは少ないです。にんちしょうという病気の方が多からだそうです。

昔のきおくは長くのこっているけれど、新しいきおくはわすれてしまうようです。なので、毎回私は「はじめましての子供」のようです。ですが、それでもみんな私にやさしくお話をしてくれたり、いっしょに工作などのプログラムをする時はきょう力して作業もしてくれます。初めは、覚えてもらえないことがさみしかったけれど病気になりたくてみんななつたわけではないので私もそれがりかいてできるようになり、今では、また次の日、新しいお話ができると思いいプラスに考えるようにしぜんとなっていました。

デイサービスの中はバリアフリーが多く、高れい者の方やしょうがい者の方がすごしやすいかんきょうになっています。

福祉のマークも色々あり、たくさんの人にも知ってもらいたいなと思っています。お店や公園にも福祉のマークがたくさんあります。かわいいマークをしているものもあります。なので色々な人にも福祉のマークを知ってもらいたいなと思いました。



マークを見つけると私はよくお母さんに「このマーク福祉のマークやね。」と言っています。

福祉とは、全ての人が自分らしく楽しく、幸せに生活するために大切な事です。

私はしょうらいかんごしさんになることがゆめです。しせつの中で一生けんめい働くかんごしさんや、しょく員さんは、すごくかっこいいです。とてもきちょうなけいけんをさせてくれるお母さんの仕事場には、感しゃの気持ちでいっぱいです。利用者さんたちも、やさしくしてくれてうれしいです。

大人になったら、私もたくさんの人を助けたいなと思いました。そしてたくさんの人がすごしやすい町になってほしいと思います。

## 小学生の部 佳作

### 「福祉について思うこと」

大生院小学校 6年 久枝 里穂

私はよくお母さんと病院へ行きます。病院へ行くと、車椅子に乗っている人、つえをついて歩いている人、歩行器を押して歩いている人など、さまざまな人達をよく目にします。このような人達が困っていたら、どうしたらいいのか、手も足も出ません。ただ、声もかけずにみているだけの人の気持ちになってしまいます。少しでも、手をさしのべられたらいいなあとと思いました。

私は、まだ福祉のことは、勉強していません。図書館に行っているいろいろと調べてみることにしました。一言に「福祉」といっても、いろいろな福祉がありました。今後、福祉の事にたずさわっていきたいなあとと思う気持ちがあふれだしました。今、できることをさがして、たずさわっていき、それと同時に、ボランティア活動も行っていきたいと思います。

車椅子に乗っている人の気持ちは分かりませんが、今思うことは、安心して通れる道づくり、段差がないスロープなどを使って、施設やスーパーなどに気がねなく入れるようにしてあげたら良いのではないか。駅のホームでも点字ブロックはあるが少し前に行くときせんに落ちてしまう場合がある。実際に、ホームから、せんに転落し、命をおとってしまった人たちもいる。ホームの方

にも、安全対策が必要になってくるのだろう。

難聴児に対してのアプローチの仕方や、情報をもっと増やしてほしいと思います。パンフレットの数が少なく少しの事しか書いていません。家族間の交流する場を提供してほしいと思います。ヘルプマークはありますが、もっと分かりやすいように、難聴児の為のバッジなどがあるといいなあと思いました。

福祉の事について、調べたり考えていると、たくさん出てきました。1人でも多くの人達に手をさしのべていきたいです。これからたくさん福祉について勉強していきたいです。

### 中学生の部 最優秀賞

## 「普段の暮らしを幸せに」

角野中学校 3年 佐藤 陽太

みなさんは「バリアフリー」とはどのようなものだと思いますか。僕は多様な人々との境界線をつくらないことだと思います。

僕は時々、電車の優先席に若い人達が座っているという報道を耳にします。バリアフリーには、バリアフリーと知っているのにもかかわらず、それを無視している人々が多いという悪い面もあります。これに対し、良い面は沢山あります。障がい者に対する考え方が変わり、沢山の人が心配りの行動を必要とされるようになりました。障がい者に対する考え方が変わったことは「字幕つきCM」や「手話」などにより耳の聞こえない人が平等に情報を入手できるようになったことにも表れています。そして今日もより良い社会のために、新たなバリアフリーが考えられています。前例のような電車の優先席の問題では、障がい者に対する考えがまだ一部の人しか変わっていないことを意味しています。時間が掛かるかもしれないけれど、人々の考え方を大きく変えるような指導が必要だと実感します。例えば、点字ブロックの上に荷物を置いたり、障がい者用駐車枠に一般車を駐車させる等もその一部です。バリアフリーは障がい者の負担を減らし、平等に生活をおくるためのものだとしっかり考えなければなりません。自分だけ良いという考え方をしている人がいると、より良い社会からは遠ざかっていきます。一人ひとりを笑顔にするために助け合う行動を少

しずつ始めてみてはどうでしょうか。

あるとき、僕は買い物に行くとシルバーカーを押した高齢の方が扉の前で立ち止まっていた。僕が扉を開けてあげると「ありがとう。助かりました。」と言いました。僕はとても嬉しく、温かい気持ちになりました。その方がとても笑顔だったので、小さな心配りがとても大切だと実感しました。大きな事はできなくても、小さな事からコツコツと積み重ねていく事が大切だと僕は思います。

僕達の地域には、小学校の頃から登下校の時に通学路に立って下さる見守り隊の方々がいっぱいいます。毎朝早くから道路を渡る危険な場所に立ち、笑顔で声を掛けてくれます。挨拶をすることで気持ちがシャキッとして元気が出ます。登下校中の交通事故のニュースが度々あり、母は心配なことも多いと言っています。そんな中で、見守り隊の方々の存在にとっても感謝しています。僕も地域の除草作業や清掃活動の身近な奉仕作業に参加することで、地域の方々に恩返しをしたいと思います。

小さな心配りは多くの人を笑顔にする種。そしてその笑顔で自分も温かい気持ちになって笑顔は繋がっていきます。普段の暮らしは周りの沢山の方々の思いやりで支えられている。当たり前だと思わず、そのことに気付いて自分には何が出来るのか、身近にできる福祉活動から参加していきたいと思います。

## 中学生の部 優秀賞

### 「他人を気遣う心」

角野中学校 3年 篠崎 温菜

私は今年の春、他人を気遣うことの大切さを改めて感じさせられる、そんな体験をすることができました。

ある休みの日、私は視力を測るために眼科に行きました。その日も患者さんは一杯で、院内で座って待つことができなかったので、外で待っていました。待ち始めて1時間くらい経ったときに、中年の男性と高齢の男性が、車に乗ってやって来ました。高齢の男性は足が悪いらしく、1人では歩けず、一緒に来た中年の男性が、一生懸命支えながら歩いていました。私と同じく、外で待っ

ていた人達は、2人が、大変でしんどそうなのに気付いていながらも、誰も動こうとはしていませんでした。私も同様に、行動を起こす勇気がなく、知らないふりをしていました。しかしそんな中、私の近くにいた1人の女性だけは、院内に常備している車イスを持って来て、2人に明るい笑顔で話しかけながら、助けてあげていました。私はその女性の行動を見たときに「周りのことをよく見て、適切な対処ができる、何て気遣いのできる人だろう。」と思いました。しかも、ただ助けてあげるのではなく、それも、もちろん素晴らしいことなのですが、院内常備の車イスまで持って来るというのは、本当に凄いいし、尊敬するなと思いました。

私はこの日、女性のおかげで、他人を気遣うということに対しての勉強に、改めてなったなと思いました。学校などでも、人を気遣う勉強をしてきましたが、私はそんな場面がもし生活の中で起こったら、絶対に行動を起こすことができる、いつも習うたびに思っていました。でも、実際にそういった場面に出くわすと、何もできないということが分からされました。何かしようと心の中で思っている、それを行動に移せない限り、それは何もしようとしていない人と同じだということに、気付かされる日でもありました。

周りのことをよく見る、困っている人がいたら助ける、何をすれば1番良いのか考える、そんな優しい、他人を気遣うことのできる心を、持ち育てたいなと思います。人から好かれる、感謝される人間になれば嬉しいです。

## 中学生の部 佳作

### 「家族の認知症」

角野中学校 3年 植野 咲良

私の家には、母、兄、祖父、祖母、曾祖母と一緒に暮らしていました。私が小学5年生のとき、曾祖母がアルツハイマー型認知症になりました。いつも元気でしっかりしていた曾祖母が認知症になるなんて最初は信じられないのと同じに嘘であってほしいとも思いました。

私が生まれた時から一緒に暮らしていて学校から帰ると「おかえり。」と迎えてくれていたのに段々変わっていく様子が現実を突きつけられているようで

とてもつらかったです。

曾祖母が認知症と診断されてから1年程は家族が協力し合い介護し、デイサービスを利用したりしていました。日々症状が進んでしまい、家から外に1人で出て家族皆で捜索する日も増え、施設に入所することになりました。

曾祖母の娘である私の祖母は介護施設で働いているので、曾祖母を出来る限り家で生活させてあげたいと願いながらも、皆で協力することにも限界があり、仕方ない決断でした。

いろいろなことを忘れてしまっている曾祖母も最初は「家に帰りたい。」と言って施設から外に出ようとして転んでしまい、大変なこともありました。家で生活させてあげられないのかと家族で考えたり話し合ったりしましたが曾祖母の安全を第一に考え、施設でお世話になっています。

入所する前に家にいるときは、排泄に失敗したり、会話も成り立たなかったりする曾祖母に向き合うことができなくて目をそらしていた自分がいました。

施設に入る少し前の曾祖母の誕生日に誕生日会をしました。曾祖母は認知症になる前のような笑顔で喜んでいて私もとても嬉しかったです。

施設に入所してから数年がたちますが、コロナ禍もあり面会することができず、施設の方から見せて頂く写真を見たり様子を聞いたりすることしか出来ません。もし面会が出来る様になり会えたとしても、私の事を覚えてくれているかどうか分かりません。一緒に生活していたときにもう少し何か私にできることがあったのではないかと後悔するときもあります。

今は高齢化が進んでいて介護施設の方々も他人のお世話をすることは、とても大変だと思います。ですが人は人の力を借りて支え合って生きていかなければなりません。

私の曾祖母が長生き出来るのも福祉の仕事をしている方などたくさんの方の力があるからだと思います。私も人の為になる様なことを、できることは進んでやっていきたいと思っています。

## 「福祉について」

商業高等学校 3年 横井 有葵

私は福祉について関心があったため、中学2年生の時に老人ホームで職場体験学習を行いました。3日間の職場体験を通して、職員の方と入居者の方との関係を身近に感じることができました。

どのような病気にかかっているか、どのようなところが不自由なのか、一人ひとり違います。また、天候や季節によって体調を崩しやすい方もいらっしゃいます。そのため職員の方は一人ひとりに応じた対応を考え、しっかりと支えなければなりません。作業も一人ひとりに合った活動をしなければなりません。このように大変なことが多い仕事なのに、なぜ働き続けられるのかなと疑問に思っていました。

この疑問が少し解けたのは職場体験2日目のことでした。私が部屋の掃除を終えた頃、ある入居者の方に声をかけられました。その方がおっしゃってくださった言葉、それは「ありがとう。」でした。「ありがとう。」は今まで数え切れないほど言われてきました。しかし、この時の「ありがとう。」だけは、今までに感じたことのない不思議な感情が生まれた「ありがとう。」でした。

入居者の方、もしくは家族の方は、お金を払って施設に入居しています。だから、入居者の方が介護を受けるのは当たり前だと認識していた自分がいたのだと思います。それなのに「ありがとう。」という言葉がかけられ、嬉しさと驚きが入り混じった素敵な感情が芽生えたのだと思います。人と人が平等な気持ちで結びあっている時の「ありがとう。」はとても温かく、心の奥まで響くのだと学びました。

また職場体験中、レクリエーションも行いました。レクリエーションでは入居者の方とバレーボールをしました。ボールを床に落とさないように声をかけ合うなど全員で協力して楽しむことができました。だから、入居者の方ともすぐに打ち解けることができました。また、入居者の方と話しているうちに、自分との共通点を見つけられることも楽しみのひとつになりました。私の何倍もの時間を生きてきたお年寄りの方とお話をする中で、自分の生まれた街や歴史について学ぶことも楽しかったです。改めて異年齢の人たちと関わることの

素晴らしさを実感することができました。

福祉活動を行うこと。それはたくさんの苦労があります。ですが、入居者の方はとても優しく、職員の方も一人ひとりにしっかりと寄り添っていました。その姿はひとつの大家族のようでした。信頼し合っているからこそたどり着いた姿だと思いました。入居者の方は自分の家族と離れた施設で暮らしています。寂しかったり、家族に会いたいと強く思うこともあると思います。しかし、職員の方がいつも笑顔で接していたり、しっかりとお話を聞いているから自分の家にいるような気持ちで過ごせるのだと思います。

私は今まで福祉活動に対して、一方的な介護など、心の交流があまりないような印象がありました。しかし、職場体験学習を通して私の考えは大きく変わりました。支えられる人と支える人がいても、双方から支え合い助け合っていくこと。目には見えない心を温かくするための交流を続けていくこと。これが本当の福祉なのではないかと考えるようになりました。そして、身近な福祉活動に積極的に参加したいと思います。「福祉」という言葉の本当の意味を自分なりに理解して、行動に移したいです。

### 高校生部 優秀賞

## 「とても強い私の曾祖母」

東高等学校 2年 飯尾 天音

私の曾祖母は頭が良かった。当時94歳であったにも関わらず、難しい漢字をたくさん知っていたし、その上認知症を防ぐために脳トレのゲームをやって高得点を叩き出していた。折り紙の知識も凄く、色えんぴつやパクパクを作ってたくさん私に見せてくれた。入っていた老人ホームでは認知症チェックの「今の季節は何ですか。」という質問に「今は春ですが初夏とも言えますね。」と絶対に安心できる回答をしたり、もらってきた漢字のプリントを母の手伝いを借りてなんとか全部の穴をうめようとしていた。彼女はそれほどまでに負けず嫌いで真面目な人だった。

曾祖母は身だしなみにもよく気をつかう人だった。彼女が入院した時、母が入院生活する中で他に必要なものはあるかどうかを聞いた。彼女はしばらく考

えて「眉ペンが欲しい。」と言った。入院してもなお美しくいようとする曾祖母を私はすごく尊敬していた。

時は流れ、彼女は私が中1の時に亡くなった。中2の職場体験で曾祖母が入っていた老人ホームへ行った。一人ひとりに違う対応をして、私は人の名前を覚えるのが苦手な暗記していくのが1番大変だった。体験では主にゼリーを運んだり、昼食を運んだり、ホームのかざりつけをしたりした。私たちはそれだけだったが、ホームには1日中いる人や横になっている人もいる。職員さんたちはその人達の世話までとても丁寧にこなしていた。元々曾祖母から少しは話を聞いていたが、実際行ってみると、外側からだと見えなかった重要なところがみるみる見えてきて、本当に忙しくて大変な仕事なんだと思った。

一応聞いてみようと思い、親しくなった職員さんに曾祖母のことについて聞いた。すると職員さんは「もしかしてひ孫さん？」と驚き、色々なことを教えてくれた。ホームの皆さんが驚くほどに真面目な彼女。よく私の話もしていたと言っていた。話も上手でよく分からないものを教えてもらっていたらしい。私たち家族の知らないところでも、彼女は色々な人に愛されていたんだなと思うととてもうれしかった。私も彼女のような強くて優しい人になりたいと思った。

## 高校生の部 佳作

### 「経験すること」

東高等学校 2年 合田 響美

「障がい者」と聞いて何を思い浮かべますか。目が見えない、体が動かさえない、喋れないなど、他にもさまざまあると思います。では、そんな「障がい者」についてどう思いますか。

ある日、私はネットを見ているときにボランティアの募集を見つけました。そこには「学習支援ボランティア」と書いてありました。小中学生の勉強を教えるボランティアでした。私は子どもと触れ合うのが好きなのですが、コロナ禍でそのような機会もなかったので、すごく行きたいと思いました。

初日、私は場所と内容のみ調べて、ボランティアに行きました。私は普通の



児童施設だと思っていました。けれど、私の行った場所は障がい児放課後等デイサービス施設でした。それを知らずに行った私はとても驚きました。そして、とてつもない不安に襲われました。ここに来て大丈夫だったのか、どんな障がいを持っている子がいるのか、そして何より、どうやって障がい者に勉強を教えればいいのか。不安なことばかりで、とても戸惑いました。

簡単な自己紹介をした後、先生に呼ばれました。

「この子についてもらっていいですか。算数が得意で国語が苦手です。よろしくをお願いします。」

私はあれ、と思いました。障がいのことは何も伝えられなかったからです。てっきりそこまで伝えられると思っていたので、とても不思議に思いました。とりあえずそのまま、先生に伝えられた子の勉強を教えました。勉強を教えながらあることを思いました。

「障がい者もそうでない人もほとんど変わらない。」

私はこの施設で約10日間、勉強を教えたり、時には一緒に遊んだりしてきました。子どもたちと触れ合っていく度笑顔を見ることができて、毎日すごく楽しかったです。この施設の代表の先生と話した時、

「このボランティア楽しい？私も時々大変なことあるけどね、この子たち可愛いでしょ。子どもたちの笑顔を見たら頑張れるんよ。」と言っていました。私も短期間ではあったけれど、とても共感しました。

私はこのボランティアに参加するまで障がい者に対して負の感情を抱いていました。けれど、このボランティアに参加して、障がい者に対する意識が変わりました。子どもたちの自分で頑張ろうとしている姿を見て、心を動かされました。今、障がい者についてどう思いますか、と聞かれたらこう答えます。

「今の自分に向き合い、頑張っている人たちです。」

## 新居浜市ボランティア・市民活動センター (通称：ボラセン) ってどんなところ？

ボラセンでは、ボランティア・市民活動に関するこのような仕事をしています。

講座・育成	福祉教育	ボランティア登録
点字・手話・音訳・要約筆記などボランティアの育成につながる各種ボランティア講座を開催しています。初めての方も大歓迎！	高齢者体験、車いす体験などを通じて、高齢者や障がい者の気持ちを理解し、適切な介助方法や接し方などを学ぶ福祉教育を推進しています。	ボラセンにはボランティア団体、個人ボランティアが登録しています。皆さんが活動しやすいようにお手伝いをしています。

寄付活動	マッチング事業	その他
使用済み切手、書き損じはがき、アルミ缶を回収して寄付する活動をしています。ご協力よろしくお願ひします！	ボランティアしたい人と、してほしい人をつなぐ役割を担っています。ボランティアに興味がある方はぜひご連絡ください！	ボランティア保険の受付業務や助成金情報の紹介などを行っています。

情報発信		
		
<p>市内の公共機関で無料配布しています。毎月発行。ボランティア情報などぜひご覧ください！</p> 	<p>@Niihama651009VC</p> <p>ボランティア情報、助成金情報、イベント情報など発信しています。ぜひフォローお願いします！</p> 	<p>「新居浜ボラセン」で検索</p> <p>ボラセン公式アカウントです。友達登録をお願いします！ 質問やボランティアの申込はトークルームからどうぞ。</p> 

## 令和4年度 ふくしの作品入選作品集

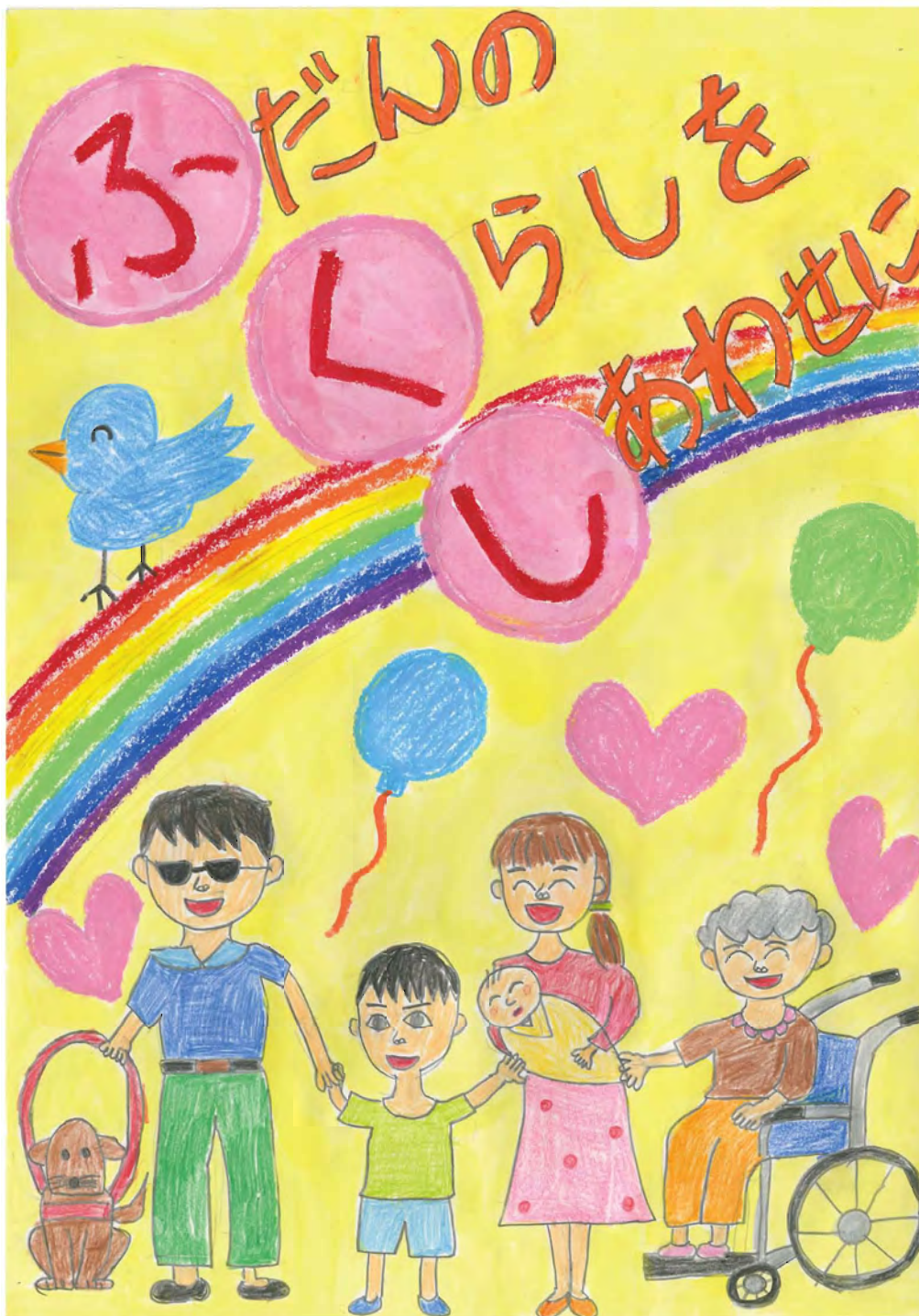
社会福祉法人 新居浜市社会福祉協議会  
新居浜市ボランティア・市民活動センター  
〒792-0031 新居浜市高木町2番60号  
TEL/FAX (0897) 65-1009  
<https://niihama-vc.com>

E-mail [v-center@n-syakyo.jp](mailto:v-center@n-syakyo.jp)

印刷 株式会社ダイワ印刷所

※全ての応募作品は、上記ホームページに掲載いたします。是非ご覧ください。





優秀賞「みんな幸せ新居浜市」  
金子小学校 4年 丸野 正樹